第7回 キャンパスベンチャーグランプリ東京

きょう表彰式

「第7回キャンパスベンチャーグランプリ東京」（略称CVG東京、愛称キャベツ・プラン）の表彰式がきょう、東京・飯田橋のホテルグランドパレスで行われる。CVGは学生の優れたビジネスプランを表彰する。CVG東京大賞（グランプリ）は日本工業大学専門職大学院（MOT）の原顯寛さんの「ステムセルバンキング『幹細胞が誰でも活用できる社会を目指す』」。大賞以下、関東経済産業局長賞、りそな銀行賞など8賞13件の表彰が行われる。大賞受賞者には賞状と賞金100万円、ほかの受賞者にも賞状と賞金が贈られる。

大賞に原顯寛さん（日工大MOT）
8賞13件が受賞に輝く

CVG東京は起業家を目指す学生の支援、新産業の創出と人材育成を目的としている。学生のユニークな発想、斬新なアイデア、独創的な技術を経済の活性化、社会貢献につなげるため、審査委員とメンター（助言者）のアドバイスがプランの実現を支える。

応募資格は関東・甲信越地域（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県）にある大学（大学院）、高等専門学校、短期大学、専門学校に在籍する学生。応募プランはテクノロジー部門とビジネス部門に分かれる。テクノロジー部門は独創的な技術または既存の技術を基にした新製品開発、サービスのビジネスモデル、ビジネス部門はユーザー視点のサービス、ボランティア、地域資源の活用、地域活性化を促すビジネスモデル。今回は38校の学生から170件の応募があった。

プランの具体的内容、優位性、実行方法などを記載した提案書に基づく書類審査を経て、最終審査へ進む。最終審査では審査員を前にプレゼンテーション、質疑応答が行われ、受賞者が決まる。

CVG東京はCVG東京実行委員会が主催で、りそな銀行、日刊工業新聞社が共催。協賛にはAGS、ODKソリューションズ、オムロン、スローガン、TDK、東京ガス、東京電力、東芝、ドリームゲート　プロジェクトニッポン、日本MITエンタープライズ・フォーラム、日本コンピュータ・ダイナミクス、日本マイクロソフト、ファンケルの13社が参加している。また経済産業省関東経済産業局、関東商工会議所連合会、関東ニュービジネス協議会、東京産業人クラブ、ベンチャーエンタープライズセンター（VEC）、コラボ産学官が後援している。

大賞

テクノロジー部門

ステムセルバンキング「幹細胞が誰でも活用できる社会を目指す」

へその緒に含まれるさい帯血には血液のもとになる造血幹細胞が含まれ、白血病、小児脳性まひなどの治療に役立つ。採取は出産時のみ。これをプライベートバンクに保管し、自身または家族のために必要なときに活用する。海外の保管率は10％以上、日本は0・41％と非常に低い。

従来の抽出プロセスは臨床検査技師の手により約3時間かかったが、独自技術（特許申請済み）では30分程度に短縮でき、専門家だけでなく医師・助産師でも実施できる。また有核細胞の抽出率は従来の技術では約70％、独自技術では理論上100％と大きく向上する。病院内にバンクおよびラボ設備を設置し信頼性を確保するとともに、スペース、人材を共有してオペレーションコストを削減。既存企業の半分以下の価格を実現する。

公的バンクはドナー提供されたさい帯血を国の補助金で保管し、白血病などの移植治療に利用。全国にある11の公的バンクは赤字経営で、今後の供給体制に問題がある。この危機的状況を打開するため、公的バンクに対して技術の提供、共同開発、経営サポートを実施し、共存を目指す。「幹細胞の活用が当たり前の社会の構築」を目指し、社会に貢献していく。

ごあいさつ

実行委員長　岡村　正

日本経済は今、岐路に立っています。グローバル化という大きな潮流変化に対応し、日本経済の再生を果たすためには、量を求めるのではなく、質で勝負していかなければなりません。「科学技術創造立国」を国家ビジョンとし、常に最先端の技術力を持つ国として、世界に日本の存在感を示していくことが必要だと考えます。

昨年、北海道大学の鈴木章名誉教授と米パデュー大学の根岸英一特別教授が日本人として6、7人目となるノーベル化学賞を受賞されたことは、学術研究部門における日本の水準の高さを改めて世界にアピールするとともに、国民に勇気と希望を与えるものでした。日本の財産は、「人」「知恵」「汗」しかありません。教育を含めた人材育成に注力することが極めて重要と考えています。

CVG東京は斬新なアイデア、豊かな発想力とあふれる情熱・意欲を併せ持つ学生たちのビジネスプランコンテストです。テクノロジー、ビジネスの両面から次代を切り開くような新産業の種を発掘し、その芽を育むのが趣旨であり、実際に多くの起業家を輩出してきました。日本は開業率が廃業率を下回る状況が続いておりますが、開業率が1％上がれば約17万人の雇用が生まれるとの試算もあります。優秀な人材の輩出とともに、雇用創出という面でも、CVG東京の意義がこれまで以上に増しており、期待の高まりも実感しています。

日本の財産は人、知恵、汗

今回は関東・甲信越地域の大学（大学院）、高等専門学校、短期大学、専門学校から前回の31校・106件を大幅に上回る38校・170件のプランが寄せられました。内容もIT、ライフサイエンス、学習・教育支援、健康づくり、地域活性化とバラエティーに富み、日本の新しい経済社会を垣間見たような気がしました。

CVG東京の取り組みが次代を担う人づくり、ベンチャー創出の一助になるよう、今後とも一層尽力して参ります。

大賞を受賞して

日本工業大学専門職大学院
原　顯寛さん

社会的課題解決に着目

テーマは新しい価値提供

私は社会人学生として、化粧品会社モルトベーネに所属し、日本工業大学専門職大学院でイノベーション研究を行い事業計画を策定しています。事業計画をまとめるにあたり協力していただいた多くの皆さま、並びにこのような貴重な機会をいただきましたことに大変感謝しております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

まず、「ステムセルバンキング『幹細胞が誰でも活用できる社会を目指す』」を考えた背景についてお話しします。

現在、日本の開業率と廃業率が逆転し、好転する気配は感じられません。先代たちがつくり上げてきた日本を、このままにして良いのだろうか？自らできることがあるのではないか？そんな問題意識を持ったメンバーと協力者で、新しい価値提供をテーマに企画を進めてきました。

新しい価値提供にはイノベーションが必要です。イノベーションというと難しく感じますが、きちんとステップを踏めば誰でもイノベーションを起こすことは、可能だと考えています。

次に、事業計画についてお話しします。近年、iPS細胞（万能細胞）の発見に伴い幹細胞が注目されています。幹細胞は出産の際に採取できる「さい帯血」に豊富に含まれています。さい帯血細胞は究極に若い細胞で、小児脳性まひなど難病治療や将来の再生医療において極めて高い可能性を持っています。ただし、わが国では99％以上が廃棄されています。その点を、大きな社会損失として捉え、さい帯血を「誰でも」保管できる社会を実現することを事業目的としました。

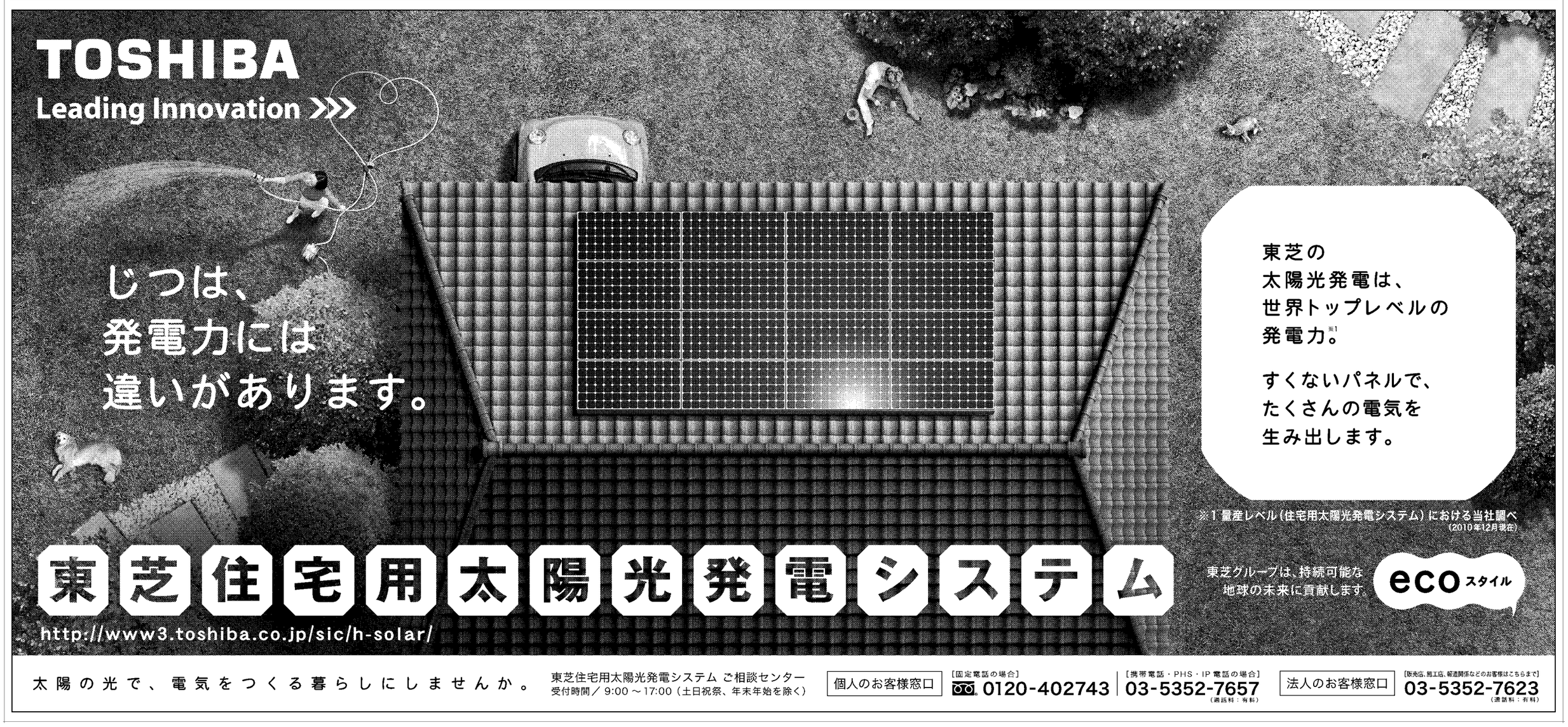
当初より「知財戦略」を活用し、大型産婦人科と共同で事業化することで固定費の大幅削減を行います。その結果、お客さまが求める適正価格のサービス提供が実現し、新しい潜在市場の創造を可能にします。市場規模は約100億円とシミュレーションしており、当事業計画は、3年後に売上高10億円、営業利益1・7億円を目指します。

「イノベーションは社会的課題解決から見いだせる」、それが実感です。当事業計画をまとめるために、実務家教員が多い国内ビジネススクールを活用しました。これからも、さまざまな分野の多くの皆さまのご協力ご指導が、事業化には必要と考えています。

第7回CVG東京　実行委員会

委員長
岡村　正氏（東京商工会議所会頭）

副委員長
清成　忠男氏
（日本ベンチャー学会特別顧問、法政大学学事顧問）

委員
照井　恵光氏（経済産業省関東経済産業局長）
大竹　美喜氏
（国際科学振興財団会長、アフラック最高顧問）
中村　利雄氏（東京商工会議所専務理事）
青木　利晴氏（NTTデータ　シニアアドバイザー）
岩田　直樹氏（りそな銀行社長）
一柳　良雄氏（一柳アソシエイツ社長）
井水　治博（日刊工業新聞社社長）

【主催】CVG東京実行委員会
【共催】りそな銀行、日刊工業新聞社
【協賛】AGS、ODKソリューションズ、オムロン、スローガン、TDK、東京ガス、東京電力、東芝、ドリームゲート　プロジェクトニッポン、日本MITエンタープライズ・フォーラム、日本コンピュータ・ダイナミクス、日本マイクロソフト、ファンケル